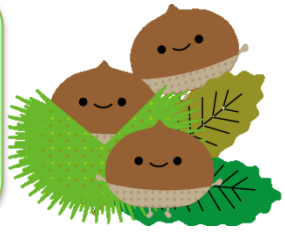
11月

# 父母と学ぶ会だより

NO．３６研修報告号～H30 年１１月発行



## 研修報告

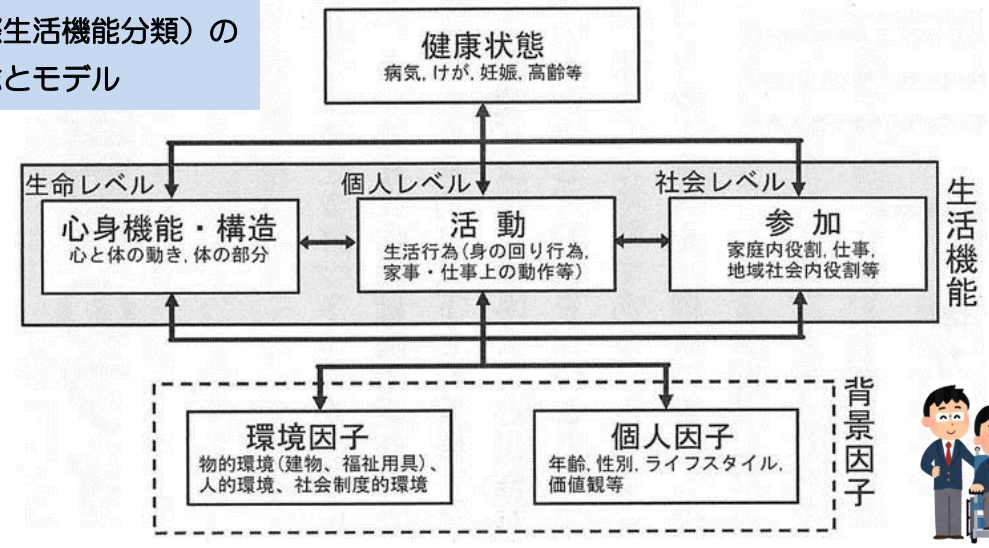
心理学療法講座　　平成３０年7月３日（火）・１０日（火）・１７日（火）

ＩＣＦと応用行動分析学による障害のある人の
問題行動の軽減及び適応行動の形成について

日々の生活の中で何を望んでいるのか、何が必要なのかという視点に立って意見を聴き、観察することによってＩＣＦをどのように具体的に活用し実践する事ができるのか考える事ができる。応用行動分析学においても、問題行動にだけ焦点をあてるのではなく、良い所を見つけのばしていくという事に焦点を当てた支援が求められる。

全ての行動には意味があり、その人がなぜそのような行動をするのかにも意味がある。その行動を理解するためにＡＢＣフレームに当てはめて考えると理解しやすい。　　（文責　和久井　美奈）

ＩＣＦ（国際生活機能分類）の理念とモデル



行動分析するにあたって　　ＡＢＣフレーム

| Ａ | | Ｂ | | Ｃ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 先行条件 | → | 行動 | → | 結果条件 | | |
| **例** | | | | | | |
| 気にいったものが目につく | → | 無断で持ち出してしまう | → | 職員の対応<br>叱る・注意する<br>取り上げる | → | その行動が繰り返される |
| **支援方法** | | | | | | |
| 気に入ったものが目につく | → | 貸してと人に言う事を身につけさせる | → | 言えた時<br>笑顔で褒める | → | その行動が減る |

行動を具体化することにより、その行動が周囲の環境（周りの人の対応も含めて）によって形成

研修報告

平成３０年９月１３日（木）

# 障害者スポーツ講座

講師　大塚　康夫　氏

今回、障害者スポーツについて公認上級障害者スポーツ指導員の大塚康夫先生から学びました。自分はこの研修を受ける前までは、障害を持った方は、行うスポーツが限られているだろうと思っていました。しかし、この研修を受けてから考え方が変わりました。障害を持った方でも色々なスポーツが行われていることが分かりました。

自分が一番興味を持ったのは、車椅子の工夫がそれぞれのスポーツによって違うことです。形やタイヤの角度、車輪の傾き度等とても種類があると思いました。
最後にオリンピックは有名でありますが、パラリンピックはまだ世間的には知られていません。これを機にパラリンピックにも注目してください。オリンピックとは違った感動や活躍が見られると思います。　（文責　後藤　和樹）

## スポーツ用車椅子の種類

陸上用

バスケット用

テニス用

研修報告

医療・看護講座　　平成３０年６月１１日（月）・７月９日（月）・９月１０日（月）

# 知的発達障害者と医療

講師　山倉　慎二　氏

今回は、山倉慎二先生の医療・看護講座に３回参加させていただき、摂食・嚥下障害について学びました。摂食・嚥下障害は歳を取るといずれか直面する問題です。呼吸障害によって摂食困難になり、嚥下障害によって気道分泌貯留誤嚥性肺炎になってしまいます。

摂食・嚥下障害の要因
1　障害からくるもの
　筋の協障害、変形、過敏、知的障害
2　不適切な食事環境
　摂食姿勢、食形態、介助方法、摂食器具
3　生活リズムの乱れ
　便秘、睡眠、食事間隔、薬剤の影響
4　全身状態の悪化
　呼吸障害、胃食道逆流、筋緊張の変化、加齢
5　精神的要因

１日でも長く経口摂取を続けるためには、全身状態の管理、生活リズムの調整、摂食姿勢、食形態、介助方法の検討が必要になる。食事介助を行う際にも、本人のペースを考え、ＯＫサイン（口を開ける、目を見る）とＮＧサイン（口を開けない、顔をそむける、表情が固まる）を見極める必要がある。

こちらの正しい姿勢や食べるペースを押し付けるのではなく、あくまでもサポートすることを念頭に置き支援していきたいと思いました。　（文責　佐藤　潤）